

三重県桑名市の城南干拓は、揖斐川と員弁川の河口に挟まれた干拓地だ。

1857年の大津波以降、荒地として放置されていたが、1946年に城南干拓事業として着手された。総工費2億円余りと、二年の長きにわたって干拓し、57年によりやく完成した。

70名が入植し、城南開拓農協が設立され、55年から干拓地の農地・道路・用排水路の整備及び住居の建築などに懸命に取り組んだ。

主に水田で稲を育て、ようやく2期目の収穫が終わった直後に、とんでもない災害が襲い掛かってきた。

59年9月26日、伊勢湾台風が猛威をふるい、東海地方で死者5000名を超える、未曾有の大災害をもたらした。

城南地区は干拓地であったため、堤防が決壊して全土が浸水し、55名の尊い命が奪われるという最悪の状況となってしまった。

これまでに築いてきた土地が一瞬にして沈んでしまった。水田はもちろん、家屋は流出・全壊など、壊滅的な状況だった。

それでも入植者たちは負けなかった。マイナスからの再出発で、仮設住宅で生活すること2年、苦痛と心痛を乗り越え、災害後3ヵ年で復興を成し遂げた。

79年、城南開拓農協を解散するに当たり、犠牲者の御冥福を祈り、城南干拓地の繁栄の礎として、「開拓史の碑」が建てられた。

この碑の2.5kmほど北には、62年に建てられた「伊勢湾台風不忘碑」がある。

現在もこの地には、きれいな田園風景が広がっている。

城南干拓 24-205-1

①調査日 令和元年6月25日

②所在 桑名市

③地区の沿革 荒地として放置されていた潟を昭和21年城南干拓として着手、70名が入植。

④設置年月日 昭和54年4月

⑤設置者 70名の氏名

⑥碑文（表面） 城南干拓 開拓史の碑
桑名市長 水谷 喜治 書

⑦碑文（裏面） この地は、安永四年の大津波以来荒地として放置されていたが、太平洋戦争後の食糧難を克服するため、食糧の増産を目指し、昭和二十一年城南干拓事業として着手され、総工費二億円余と苦節十一か年余の歳月を費し、昭和三十二年度に完成した。入植者七十名は城南開拓農業協同組合を設立し、昭和三十年から三か年にわたり、干拓地の農地宅地、道路、用排水路の整備及び住居の建築等に専念したしかし、僅か二期の収穫後、昭和三十四年九月二十六日伊勢湾台風による大災害を被り、九仞の功一気に失い、男女合わせて五十五名の尊い人々の命が奪われた。入植者は、家族近隣から多くの犠牲者を出し、被災地において、仮設住宅で生活すること約二か年、苦難と心痛を乗り越え、災害後三か年の短期間に、復旧を成し遂げた。現在この地に居住する私達は、ここに城南開拓農業協同組合を解散するに当たり、御尽力を賜った国・県・市及び、先輩諸氏の御苦勞に感謝すると共に、犠牲者の御冥福を祈り、城南干拓地の益々繁栄の礎として、この碑を建てる。

昭和五十四年四月吉日建立

伊勢湾台風による被害者 略

入植後没した者 略 建立者の氏名 略

⑧現在の状況 揖斐川と員弁川に挟まれた干拓地の墓の一部に建立